

2017 年 1 月 16 日

アグラ株式会社の株式譲渡について

株式会社産業革新機構（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：勝又幹英、以下「INCJ」）は、同社が保有するアグラ株式会社（本社：東京都新宿区、代表取締役：萱原昇、以下「アグラ」）の全株式について、株式会社豆蔵ホールディングス（本社：東京都新宿区、代表取締役社長：荻原紀男、以下「豆蔵 HD」）に譲渡することを決定しましたのでお知らせ致します。

INCJ は 2014 年に、大規模なデータを短期間・低コストで仮想的に統合するソフトウェアツール「AGRA」の開発・販売を行う「アグラ」に対し、事業を推進するための成長資金として他の投資家とともに同社への投資を決定しました。その後、「アグラ」は仮想データ統合ソリューション「Agra V シリーズ」の開発および販売に至っています。

一方、豆蔵 HD は、情報戦略策定からシステム開発までの一貫した情報サービスおよび半導体事業を提供するグループ会社を取りまとめ、グループ運営の方向付けを行う中核会社です。このたび、同社からグループ事業拡充のために、当社が保有するアグラの株式を譲り受けた旨の申し出があり、INCJ としては、アグラの発展のために事業会社に委ねるのが適切と判断し、保有する全株式を豆蔵 HD に譲渡することとしました。

参考）INCJ は、2014 年 8 月に「短期間でデータを経営資源化させるデータ基盤ツールの開発を行うアグラ株式会社への出資を決定」を公表しています。

URL: <http://www.incj.co.jp/PDF/1418092232.01.pdf>

アグラ株式会社

設立 2008 年 3 月
事業内容 「仮想データ統合ソリューション Agra V シリーズ」の開発、販売、コンサルティング
所在地 東京都新宿区
代表者 萱原 昇
URL <http://www.agra-japan.com/>

株式会社豆蔵ホールディングス

設立 1999 年 11 月
事業内容 業務システム、組み込みシステムにおけるコンサルティングを中心とした情報サービス事業および半導体事業の提供
所在地 東京都新宿区
代表者 荻原 紀男
URL <http://www.mamezou-hd.com/>

株式会社産業革新機構(INCJ)について

INCJ は、2009 年 7 月にオープンイノベーションの推進を通じた次世代産業の育成を目指して、法律に基づき設立された会社です。総額約 2 兆円の投資能力を有しており、革新性を有する事業に対し出資等を行うことで産業革新を支援することをミッションとしています。

INCJ は、投資・技術・経営等で多様な経験をもつ民間人材によって運営されており、法令に基づき、当社内に設置している産業革新委員会にて、政府の定める支援基準に従って投資の可否の判断を行い、日本の産業革新に資する投資を実施いたします。

以上

<本発表資料のお問い合わせ先>

株式会社 産業革新機構 企画調整 Gr. 広報 入江、坂井
東京都千代田区丸の内 1-4-1 丸の内永楽ビルディング 21 階
電 話 : 03-5218-7202 URL : <http://www.incj.co.jp/>

[別紙]

1. 対象事業会社

アグラ株式会社

- ・設 立 : 2008 年 3 月
- ・代表者 : 萱原 昇
- ・所在地 : 東京都新宿区
- ・事業内容 : 「仮想データ統合ソリューション Agra V シリーズ」の開発、販売、コンサルティング

2. 支援決定概要

- ・支援決定金額: 6 億円(上限)
- ・実投資額: 6 億円
- ・共同投資家: Seed Technology Capital Partners、ジャフコ、創業者等(2016 年 7 月時点)
- ・株式保有割合: 39.8%(2016 年 7 月時点)
- ・支援決定公表日: 2014 年 8 月

<https://www.incj.co.jp/news/assets/1418092232.01.pdf>

- ・投資ストラクチャー図:

<https://www.incj.co.jp/performance/upload/docs/1418092232.02.pdf>

3. 経緯

(1) 出資の経緯

昨今、企業のグローバル拠点化と M&A の活発化に伴い、企業が内外に保有するデータを迅速かつ横断的に把握・分析するニーズが非常に高まっています。そのような状況下、アグラは、大規模なデータを短期間・低コストで仮想的に統合するソフトウェアの開発・販売ならびに企業情報システムのコンサルティングを行うベンチャー企業として、2008 年 3 月に設立されました。

INCJ は、アグラの事業が、既存の企業システムの枠にとらわれない経営情報資源活用や企業間データの短期統合を可能にすることで、企業再編・統廃合等の促進に寄与できると期待し、2014 年 8 月、アグラに対し成長資金として 6 億円を上限とする投資を決定し実行しました。

(2) 事業の進捗

INCJ の投資以降、アグラは顧客企業における経営情報資源活用や企業間データ統合に係る案件の受注並びに仮想データ統合ソリューション「AGRA」の開発を進めてきました。しかし、受注案件への対応並びに製品の追加開発における社内リソースの不足等の影響もあり、アグラ単独では当初想定していた事業展開に至っていない状態でした。

2016 年 9 月には、仮想データ統合ソリューション「Agra V シリーズ」を開発・販売し、大手企業が導入しましたが、今後のアグラの事業発展のためには、事業会社との密接な提携が不可避との判断から様々な検討を行っていました。

(3)Exit の経緯・内容

そのような状況下、豆蔵ホールディングスから、INCJ の保有するアグラの株式を譲り受けたいとの申し入れがありました。同社は、情報戦略策定からシステム開発までの一貫したサービスおよび半導体事業を提供するグループ会社を統括していました。グループ事業拡充のために、アグラのソフトウェアの活用を検討しており、INCJ としても、アグラの発展のためには豆蔵ホールディングスに経営を委ねるのが適切と判断し、2017 年 1 月、保有する全株式を同社に譲渡することとしました。

4. 主務大臣(経済産業大臣)の意見

ベンチャー企業等への積極的な支援は、今後も我が国の産業競争力の強化において重要である。本案件の課題を分析し、その反省に立って引き続きベンチャー企業等への支援を行うとともに、支援案件全体としての収益性の確保に努められたい。